

~Current : 時代の流れ あるいは 新しい潮流~

かねんと

2017.9.25
No.51

佐藤信市長に聞きました〜男女共同参画のこころ〜高齢社会のこころ〜



前号で、50号という節目を迎え、心新たに男女共同参画社会を目指し、歩み続ける「かねんと」
今一度、初心に立ち返るため、今号では創刊号以来25年ぶりに市長インタビューを行い、気になるこれからの鹿沼市について、ご自身の事も含めて聞いてみました。
また次号では市の男女共同参画プランの移り変わりを取り上げたいと思います。

社会のため人のために働く



Q. 最初に市長ご自身について伺います。何故、市長になろうと思われたのですか？



A. 私は、最初から市長を目指していた訳ではなく、その時に自分がどう決断するか、何をしなきゃならないかという判断を重ね、今日に至っています。
大学卒業後民間企業に勤めましたが、働く目的が利益中心みたいになっていて、もう少し社会や人のために役に立つ仕事がしたいと思うようになりました。そこで、試験を受けて、鹿沼市役所に転職したのです。人の為に働くことは、人生の中でたいへん貴重だという思いがあります。しかしどうしても行政は、担当者として決められた範囲で動くので、もっとグローバルな視点で働き、さらに幅広く人と接することが出来るという思いから、市長を務めるようになり、今日に至っています。

市民に身近な市長



Q. 確かに色々なところで、市長をお見かけします。私達に身近な市長だなあと感じます。

主な内容

- P1~P3 ・市長インタビュー
- P3 ・女性が輝く団体紹介
- P4 ・地域でトーク・かねんとイチオシ

鹿沼市ホームページから「かねんと」バックナンバーがご覧いただけます。
トップ>福祉・健康>人権・男女共同参画>男女共同参画>男女共同参画情報紙「かねんと」バックナンバー

「かねんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。
—鹿沼市—



A. みんなの張り合いになっていただければと思って、色々なところへ顔を出すようにしていますが、思った以上に良い意味で受け取っていただいているようです。

自分の事は自分で



Q. 市長のワークライフバランスはいかがですか？また、ご家族の中での、男女共同参画は？



A. 私の仕事には休みがないので、ないというのが現状です。家族は大変だと思います。そんな状況なので、あまりお手本にはならないです。家族には負担ばかり掛けちゃって。感謝はしているんですけど、不器用で口に出せないですね。でも、自分の事はなるべく自分でやるようにしています。

きつと壁はなくなる



Q. 鹿沼市の男女共同参画に対する考えをお聞かせ下さい。また、県内で鹿沼市の女性管理職の比率が低い事をどのように感じていますか？



A. おそらく、あと10年15年経つと男女の比率の差はなくなっていくと思います

す。一般行政職でいうと課長以上67名中、女性はずか1名です。様々な要因がありますが、そもそも課長世代の女性の比率が少ないのです。しかし、係長相当職を見ると、70名中、女性が25名で、比率は35・7%です。毎年の採用を見ても、現在は男女の比率は半々ですから、あと何年かでこの男女の比率の差はなくなると思っています。

最後は「人」だと思っています

男女共同参画の考え方としては、もっと女性が社会に出て発言した方が、健全な社会になると思います。地域社会を構成する一員として、男女がお互いにしつかりとものが言える社会じゃないと歪んでいくと感じますね。男女で分け

るっていうのも違うのかもしれない。最後は「人」だと思っています。

「介護施設」と「在宅介護」

両方取り入れて



Q. 高齢者が最期まで住み慣れた地域で暮らすための必要な取組みについてお聞かせ下さい。



A. 非常に大きな課題だと思います。介護保険制度は、当初考えていたより維持するのが難しい。国が、市町村に任せる負担が増えました。それぞれの地域でどうやって高齢者を支えていくかというのが大きな課題になっています。

先ずは施設の充実ですが、鹿沼市では着実に毎年施設を増やしています。しかし、費用を抑制するという点で、やはり在宅介護は重要です。在宅支援の仕組みをしっかり作っていく必要がありますが、現状は、在宅医療に対応する医師が非常に少ないのです。もっと在宅看護も、ヘルパーさんによる支援も必要となります。今、その動きは、医療関係者と福祉関係者の連携という形で始まっています。

お互いに支え合う地域づくり

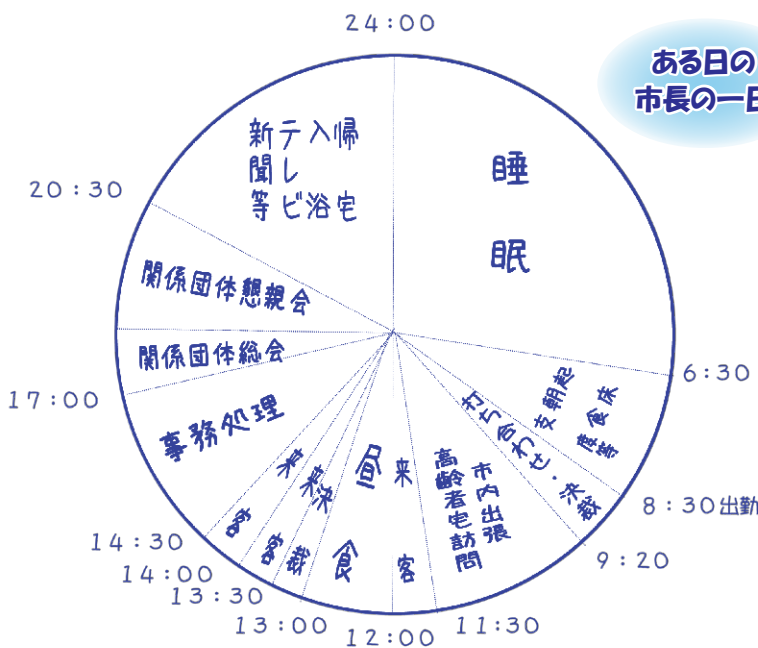
いやおうなく高齢化は進んでいきます。特に山間部は急速に進みますので、高齢者同士で、元気な方が困っている方を支えるという仕組みを作らないと、マンパワーの確保と言う点で難しくなると思います。業者だけに頼るのも、家族で介護するのにも限界があります。お互いに支え合える地域づくりというのが理想であり、その仕組み作りはもう既に始まっている

のですが、さらに充実させていく事が、何より大切だと感じています。

子育てもそうですし、介護も地域みんなできると言うのが基本ですね。地域で安心して暮らすには、コミュニティションづくりが大変重要だとつくづく思います。



ある日の市長の一日



*** 佐藤市長にお会いして ***

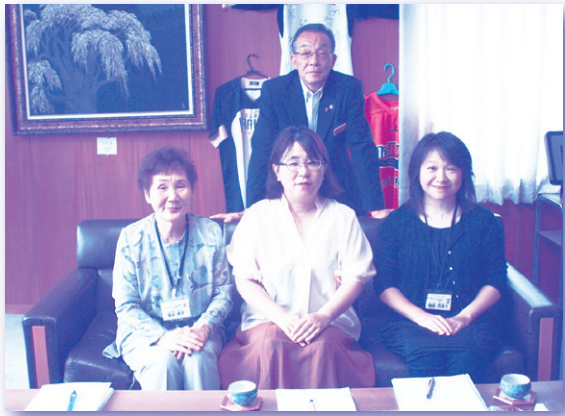


「お茶でも飲みながら」私達編集員にそう言ってお客様に振る舞う様に接してくだされた佐藤市長。インタビューでは「お手本にならなくて」とおっしゃいながら、飾る事も隠す事もされず赤裸々に現状を語りて下さいました。

市長の人柄がとても感じられ楽しく貴重な時間でした。市長の、人へのさり気ない気遣いは、とてもかたじけなくも人生のお手本にしたいと思えます。(福田)



ワークライフバランスの質問で、ご家族へ感謝をしつつ、私の仕事には休みがないので、笑顔でおっしゃりながら、「自分のことは自分でなるべくやるようにしている」と、きさくにお話しただけなことがとても印象的でした。すばらしい時間をありがとうございました。(高橋)



2015年の国勢調査では4人に一人が高齢者になりました。

様々なところで高齢社会を実感し、高額な介護施設利用料や医療費の負担に心配を抱えて暮らしている中、佐藤市長のインタビューで心が軽くなりました。最期まで住み慣れた地域に暮らせるように、介護制度と共同して活動ができる仕組みや、マンパワーづくりを、私も住民のつながりを大事にしながら応援して行きたいと思えます。(青山)

女性が輝いている団体を紹介します

No.8 「かぬまマイ・カレッジ」

私達「かぬまマイ・カレッジ」は平成8年「市民が創り、市民が学ぶ、市民の大学」として市民主導で学習機会を提供することを目的に、市から委託業務として発足しました。

カレッジでは、市民自らが「こんな講座をやりたい」と思う講座を自由に企画・運営する形式をとっており、誰でも参加でき、受講できるのが特徴です。又、県民カレッジにも講座を提供しています。

講座は年1回募集し、応募講座をカレッジの講座として適当か審査した後、前期・中期・後期にわけて市民に周知し、受講生を募集します。

事務局は、講座募集・計画書の承認、会場予約、講座一覧作成および周知。講座受付、開講準備（事業者・受講者）発送、変更、中止等。そして事業終了後は事業報告書兼決算書提出で1講座が終わります。平成29年度は300講座あります。

また、カレッジ講座の成果等を発表するため毎年発表の場を提供しています。お陰様で平成29年6月10日11日に20周年記念事業「かぬまマイ・カレッジまつり」も盛況に開催いたしました。

これからも事業者・講師・受講者みんなで作るカレッジをめざしていきます。



*** 開催しました ***

「地域でトークin中央地区」 & 「地域でトークin西大芦」

「地域でトーク」は、市民の皆様にも男女共同参画についての理解を深めてもらうために、鹿沼市男女共同参画社会づくり実行委員会の主催で毎年開催されています。今年度は中央地区、西大芦地区、北犬飼地区の3か所です。今回、7月21日にまちなか交流プラザにて行われた中央地区取材しました。

講師に上都賀教育事務所の神山先生をお迎えして、男女共同参画とは何かを聞いたり、自ら考えたりしました。会場からは男性・女性関係なく笑いがあふれます。いくつかのテーブルに分かれて実施されたグループワークでは、男女共同参画の川柳を絵にしたスライドを見て「どんな場面か想像する」というお題が出されました。会場からはいろいろな意見が出されていましたが、自分の考えと違う意見をたくさん聞いて、大変興味深い研修でした。(レポート：高橋)

先入観が差別につながっていくと感じました。相手を認めて理解しあえる生活、未来を望んでいきたいと思いました。(感想：青山)

7月31日には、西大芦コミュニティセンターで盛大に開催されました。



【お題に出された川柳と絵】



出典：公益財団法人しまね女性センター
川柳を描こう！イラストコンテスト
最優秀賞作品

伊勢神宮にお参りした帰り、「おかげ横丁」で苔玉と出会いました。苔玉とは、植物の根を用土で包み、その周りに苔を張り付け、糸で固定したものです。私が購入したものは「神が宿る樹」といわれるガジュマルが植されており、お参り帰りのお土産にぴったりと思ったのですが、雑貨店でも取り扱われていないことがあるほど人気だそうです。お手入れは、持ってみて軽く感じたら水を張ったバケツに丸ごとドボン。出てくる気泡がなくなったら引き上げ、たまにお外で日光浴。とても簡単です。数々の植物を枯らせてきた私ですが、毎日眺めて可愛く感じるとこの苔玉を、長く育てていきたいと思えます。

♥ かれんとイチオシ! ♥

「苔玉」



編集後記

先日「家族はつらいよ」を観ました。山田洋次監督が熟年夫婦の絆を描いた、笑い涙の人間味あふれる喜劇映画です。序盤おばあちゃんが、「お父さんと居るのがストレス」と言います。妻がすべてやるのが当たり前で、あうんの中で感謝の言葉を聞けないままに長く暮らしてきました。慣れの中に許す気持ちが出てくるものの、やはり「有難う」の声を聞きたい。妻の誕生日、プレゼントのリクエストは「450円(離婚届の謄本代)が良い」これを、夫は冗談と聞き流す。妻に不満の心があることを知りえない。

映画の後半は男達が自身のできる事を始めていく様に。家族の中の暮らし方が変わって、女性達は暮らしが良くなっている…と気が付き始めた。

気づくことで、その後の生活環境は「男女共同参画社会」に円満に近づいて行くのです。

編集員 福田万里子・高橋和子・青山房子